

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21590568

研究課題名（和文）医療現場のニーズに即した臨床倫理サポート体制の確立に関する研究

研究課題名（英文）Study on Foundations of Clinical Ethics Support
in response to clinical settings

研究代表者

板井 孝一郎（ITAI KOICHIRO）

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：70347053

研究成果の概要（和文）：本研究では、単なる「理論的」研究の枠組みに留まるのではなく、米国・英国の倫理コンサルテーション・システム構築の現状を踏まえながらも、日本の医療現場において実効性のある「臨床倫理サポート」体制の確立のために必須と思われる課題を整理し、特に臨床倫理コンサルタントに期待される役割とその資質について、実践的観点からも明確にすることを目的としている。

研究成果の概要（英文）：In this report, we examine a system about the usage of clinical ethics support in UK and US. And also, we consider how to construct the clinical ethics consultation, which support health care providers who face ethical dilemmas in clinical settings in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：臨床倫理コンサルテーション、倫理コンサルタント、臨床倫理コーディネーター、臨床倫理サポート、コア・コンピテンシー、コア・スキルズ、倫理的アセスメント・スキル

1. 研究開始当初の背景

米国では1970年代の早い段階から倫理コンサルテーションが行われていたという報告もあるが、国レベルでの検討と整備が本格化するのは1990年代に入ってからのことである。欧州においては、米国やカナダなどの北米圏からやや遅れた1990年

代終わり頃から、英国をはじめ欧州各国においても倫理コンサルテーション活動の取り組みが見られ始め、2000年以降、活発化している。特に英国において2001年よりスタートしたUK Clinical Ethics Networkによる臨床倫理サポートの取り組みは、欧州全体の中でも特筆に値する。

1998年にAmerican Society for Bioethics and Humanities によって「医療倫理コンサルテーションにとっての核となる能力 (Core Competencies for Health Care Ethics Consultation)」という報告書がまとめられた際、倫理コンサルテーションをめぐる様々な問題や今後の課題が体系的に整理された。

臨床現場にとって倫理コンサルテーションが不可欠であるという見解自体には、概ね異論のないところではあるが、主に以下の2点が問題点として挙げられている。①倫理委員会によるコンサルテーションは、多様な人材による多面的アプローチが可能な反面、招集には時間がかかり機動力に欠け、時として「お墨付き委員会」のような「権威主義」に陥りやすいこと、②倫理コンサルタンによる個人的コンサルテーションは、迅速対応が可能な反面、倫理コンサルタンの「個人的価値観」が前面に出てしまう危険性もあり、またその専門的トレーニングや資格整備の問題など「社会的責任と責務」の範囲が曖昧なままであること。こうした点を鑑みた場合、特に日本国内では依然として倫理委員会は「研究倫理委員会」の性格が強く、「臨床倫理」の問題を扱う状況には程遠いなど、検討すべき課題は多いことが浮かび上がってくる。

2. 研究の目的

本研究では、「臨床倫理サポート」の中核をなす倫理コンサルテーション活動において、その担い手となる「臨床倫理コンサルタン」に求められる「核となる能力 (コア・コンピテンシー)」を、とりわけ英国における成果を軸に、申請者自身が2002年以来取り組んできた倫理コンサルテーションの現場実践を踏まえながら明らかにする。

3. 研究の方法

臨床倫理サポートに関連する先行研究の多くが、単なる実態調査 (現状とニーズの有無の把握) に留まっている中、2001年よりスタートしたUK Clinical Ethics Networkの構築にあたって、それをどのような課題意識のもと、臨床現場にどのような問題があるか

という具体的観点に根差して実践的に考察された文献として、英国のNHS Trustによる臨床倫理支援活動に関する報告 (Slowther A, et al: case consultation, p45, in Clinical Ethics Support in the UK: A review of the current position and likely development, the Nuffield Trust, 2001) が高く評価できる。申請者は、2006年2月に渡英し、上記報告書の責任者であるDr. Slowtherに直接インタビュー調査を実施 (平成17年度科学研究費補助金「若手研究 (B)」) し、さらに2008年1月に渡英した際には、先の米国において提示された「コア・コンピテンシー」報告書をベースに英国としてのCore Competencies for Clinical Ethics Committeesと題する報告書策定の作業がDr. Slowtherを中心に行われており、その草案を入手することができた (平成19年度科学研究費補助金「基盤研究 (C)」)。米国・英国で期待されているコア・コンピテンシーの内容 (特に「3つのカテゴリー: ①核となるスキル (Core Skills) 倫理問題を見極める技能、問題処理能力、およびコミュニケーション・スキル、②核となる知識 (Core Knowledge) 道徳的推論および倫理理論、臨床現場への精通、保健医療制度、関連法規、専門職倫理綱領等、③人格性 (Personal Character) 寛容さ、忍耐、思いやり、正直さ、勇気、思慮深さ、謙虚さ) と比較対照し、その共通性と日本の医療現場からのニーズの独自性に関する考察を行った。また、英国EthoxセンターUK Clinical Ethics Networkのメンバーとの電子メールによる交流を通じて、特にPersonal Characterの内容、および倫理相談に訪れた相談者に対するコミュニケーション・スキルと倫理的推論 (moral reasoning) の育成トレーニングのあり方に関する検討を行った。

4. 研究成果

ASBHの特別委員会報告書 (ASBH, Core Competencies for Health Care Ethics Consultation :The Report of American Society for Bioethics and Humanities, SHHV-SBC Task Force on Standards for Bioethics Consultation, Glenview, IL, 1998. 11-23.) において、「臨床倫理コンサ

ルタントの中核能力（コア・コンピテンシー）」は、さらに以下の3つのカテゴリーに分類される。

①核となるスキル（Core Skills）：倫理問題を見極める技能、問題処理能力、およびコミュニケーション・スキル。

②核となる知識（Core Knowledge）：道徳的推論および倫理理論、臨床現場への精通、保健医療制度、関連法規、専門職倫理綱領等。

③人格性（Personal Character）：寛容さ、忍耐、思いやり、正直さ、勇気、思慮深さ、謙虚。

英国のEthox Centerにおいて策定されたコア・コンピテンシーに関するPosition Paperでは、先のASBHによるものを基本的には踏襲しながらも、特に3番目のPersonal Characterに関しては、「前提された人間性であるかのごとく、top downによって押し付けられるものではなく、倫理的推論（ethical reasoning）のトレーニングによって育成されるべきものである」ことがより一層強調されているところに特徴があるといつてよい。その意味では、①Core Skills（およびもちろん②Core knowledge）との相関関係なくしては醸成できないものであることに留意しなくてはならない。

したがって、米国ASBH報告においても大きな懸案となっており、また英国においても同じく大きな課題となっている臨床倫理コンサルタントに求められるコア・コンピテンシーに関して、以下3つのCore Skills（特に倫理的推論およびコミュニケーション・スキル）を相関させながら、臨床倫理サポート実践に不可欠な能力を以下に列挙しておく。

1. 倫理的アセスメント・スキル ethical assessment skills

1.1 道徳的コンフリクトを認識し議論する能力 ability to recognize and discuss moral conflicts

1.2 関係者の道徳的側面を理解する能力 Ability to understand the moral perspective of all parties

1.3 症例の倫理的側面について説明する

能力 Ability to explain the ethical dimension of a case

1.4 解決策を定式化し、道徳的に正当化する能力 ability to formulate and justify morally acceptable solutions

2. 操作的スキル operational skills

2.1 症例を記録し、カンファレンスを促進する能力 ability to facilitate meetings, record cases

2.2 症例検討及び臨床倫理委員会双方を促進 Skills in facilitation, of both case consultation discussions and CEC meetings

2.3 コンフリクト解決を見出すために必要なメディエーション・スキル mediation skills required to negotiate conflict resolution

3. 対人関係のスキル interpersonal skills

3.1 能動的傾聴 active listening

3.2 コミュニケーション・スキル communication skills

3.3 自分自身のことを言葉にして表現することが困難な状況にある人の想いを代弁するアドボカシー・スキル advocacy skills to enable articulation of the views of those who find it difficult to express themselves

最後に、現場で生じる倫理的問題に倫理コンサルタントとしてアプローチするに際しては、「激務」と言わざるを得ない多忙な医療現場の勤務状態において、「患者や患者家族のために」と懸命になる余りに陥ってしまう医療スタッフの「独善」への傾向性が、倫理的問題の背景に構造的因子として横たわっているということ、この点を明確に意識したアプローチを試みなければ、医療現場の実情に根ざした実効性のある「臨床倫理サポート」の確立は不可能であることを強調しておきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 板井孝一郎、倫理的視点を意識したコンサルテーション、がん看護、査読無、17(1)、2012、7-9.
- ② 板井孝一郎、困ったときの倫理コンサルテーション：SPIKESに沿って、がん看護、査読無、17(1)、2012、13-61.
- ③ 板井孝一郎、プロフェッショナルリズム教育とその実践の根底にあるもの、日本内科学会雑誌、査読有、101(1)、2012、201-205.
- ④ 板井孝一郎、ACP（事前ケア計画）としての事前指示：患者意思の「共有プロセス」を支える臨床倫理サポート、人間と医療、査読有、1(1)、2011、22-31.
- ⑤ Koichiro Itai, Theoretical debates on methodologies in clinical ethics ; Top - down, bottom - up, and clinical pragmatism as a third model, Eubios Journal of Asian and International Bioethics, 21(1), 2011, 5-8. 査読有

〔学会発表〕（計4件）

- ① 板井孝一郎、臨床倫理コンサルタントに求められるコア・コンピテンシーとは、第30回日本医学哲学・倫理学会大会、2011年11月5日、東京大学.
- ② 板井孝一郎、「非公式のカリキュラム」と「隠れたカリキュラム」の影響、第43回日本医学教育学会大会、2011年7月22日、広島国際会議場.
- ③ 板井孝一郎、ACPとしての事前指示：患者意思の「共有プロセス」を支える臨床倫理サポート、第22回日本生命倫理学会年次大会、2010年11月20日、藤田保健衛生大学.
- ④ 板井孝一郎、いかにして患者の意思を「推定」するのか：事前指示と「解釈プロセス」、第28回日本医学哲学・倫理学会大会、2009年11月1日、滋賀医科大学.

〔図書〕（計1件）

- ① 石谷邦彦監修、日本臨床死生学会編、青海社、安楽死問題と臨床倫理、2009年、全152頁（分担執筆：板井孝一郎「臨床倫理サポートとは」55-60頁）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

板井 孝一郎 (ITAI KOICHIRO)

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：70347053